



# 留学生の受入対策は万全ですか？

インバウンド付帯学総のすすめ

## 1. 実際にこんなことが起きています！

### 事例①／救援者費用

留学生が突然死！  
渡航費の問題から、母国の親族が来日するまでに一か月以上を要す。  
その間、宗教上の問題から火葬できず、専門業者に遺体保存を依頼。  
最終的な関連費用の合計請求額は約1,000万円に…。  
大学教職員などでカンパして、その費用を支払うことになった。



### 事例②／治療費・救援者費用

協定校からの留学生が学内で突然の体調不良に！  
原因不明のまま救急車で病院に搬送され、入院。  
無保険であったため、母国から親族を呼ぶことができなかった。  
また「どれだけの医療費をかけて、どのレベルの治療を受けさせるか」  
を大学が判断せざるを得ない状況に…。  
急遽、大学と協定校とで費用負担について協議し対応した。

### 事例③／賠償責任

大学のキャンパス近隣で、留学生が自転車で歩行者に衝突！  
留学生は来日して間もなく、日本語も十分に話せない状態。  
被害者との交渉もままならず、その場から逃走…。  
被害者から大学事務局に連絡が入り、事態が発覚。  
大学がその後の被害者対応をせざるを得なかった。



## 2. 全国の大学・留学生からこんな声も寄せられました！

春に任意加入で案内しましたが、日本に来たばかりの留学生が短期間で保険パンフレットを読んで、自主的に加入可否を判断するのはまだまだ難しいと思いました。  
(インバウンド付帯学総採用の大学)



大学

「アウトバウンド留学生には、渡航者全員が漏れなく付帯海学に加入するルールになっているのに、なぜインバウンド留学生にはそのような手当をしてあげないのか」と学内会議で問われ、答えに窮しました…。  
(インバウンド付帯学総未採用の大学)

海外で保険加入してきたとしても、その内容をすべて大学で確認できていないし、補償内容も使用言語も様々なので、いざという時に学内で確認した上で対応するのは難しい…。  
(インバウンド付帯学総未採用の大学)

留学生は経済的に厳しいからこそ、万が一のときに突然多額の自己負担をしなくて済むように、保険に加入しておこうと思った！  
(インバウンド付帯学総に加入、1年生)

健康保険に入っているけど、治療費の3割を自己負担するのは結構な痛手。躊躇せず、日本の高水準の医療を3割の自己負担なく受けられるこの制度にもっと早く加入したかった！  
(インバウンド付帯学総に加入、3年生)



留学生

## 3. 受入対策は万全ですか？

今後、インバウンド留学生のさらなる受入拡大が予想されます。  
全国の事例を踏まえて、これまでの対策状況を振り返っていただくと共に、  
受入対策をさらに充実させるための一助として、インバウンド付帯学総をぜひ積極的にご活用ください。

※この資料は、全国の大学における複数の事例等をもとに、東京海上日動が作成しました。

※保険の補償対象となる場合や実際の保険金お支払いについては、適用約款によります。

※事例①については、インバウンド付帯学総に加入していた場合、遺体保存費用以外の救援者費用・移送費用・遺体処置費用が支払対象となります。

# インバウンド付帯学総について

(正式名称：外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険)

## 1. 制度創設の趣旨と特長

### ■制度創設の趣旨

大学の皆様からの強いご要望を受けて、2017年4月に創設されました。

下記2点をもって、安全・安心なインバウンド留学生受入体制の構築に資することが制度創設の趣旨です。

- ① 学生にとって・・・ニーズが高い補償・サービスに絞り込むことで、割安な保険料でご加入いただけます。
- ② 大学にとって・・・学研災の上乗せ制度として、留学生受入責任を果たす一助としてご活用いただけます。

### ■特長

- ① 留学期間に合わせた保険期間で加入可能
- ② ニーズの高い「治療費用」「救援者費用」を選択可能
- ③ 賠償責任保険には、示談交渉サービスを付帯
- ④ 地震・噴火・津波によるケガも補償
- ⑤ 各種照会、事故連絡を英語メールで受付
- ⑥ 多言語（英・中・韓・ベトナム）のパンフレットあり

## 2. 推奨プランと補償イメージ

		充実タイプ (A)	治療費不担保タイプ (D)
		留学期間3か月超の学生	留学期間問わず
保 険 金 額	賠償責任	1事故 国内：1億円限度、国外：1億円限度	
	死亡・後遺障害	100万円	100万円
	治療費用	実費	
	救援者費用	300万円	300万円
保 険 料 （ 卒 業 ま で の 一 括 払 ）	保険期間 1か月まで		460円
	2か月まで		660円
	3か月まで		840円
	4か月まで	6,330円	1,030円
	5か月まで	7,480円	1,210円
	6か月まで	8,060円	1,310円
	7か月まで	8,630円	1,400円
	8か月まで	9,200円	1,490円
	9か月まで	9,780円	1,590円
	10か月まで	10,360円	1,680円
	11か月まで	10,930円	1,770円
	1年間	11,500円	1,860円
	2年間	20,130円	3,260円
	3年間	28,780円	4,680円
4年間	37,410円	6,080円	
5年間	46,030円	7,470円	
6年間	51,780円	8,400円	
日額保険料の目安 (保険期間1年間の場合)		1日あたり 約30円!	1日あたり 約5円!

下図のようにそれぞれ役割が異なり、特長がある3つの補償制度を組み合わせることで、インバウンド留学生にとって必要十分な補償が完成します。

### (3階) インバウンド付帯学総

治療実費補償・示談交渉付き賠償・救援者費用など、留学生からのニーズが高い補償に特化

### (2階) 学研災

学生が教育研究活動中に被る傷害に特化した補償

### (1階) 健康保険

治療費の70%が負担される加入義務のある補償  
※留学期間3か月超の加入義務がある学生を想定

※ 上図は補償のイメージです。  
詳細はパンフレット・保険約款等によります。

## 3. 推奨加入方式と制度導入手続き

制度創設の趣旨や事例・寄せられた声を踏まえ、「全員加入方式/B方式」を強く推奨します。

B方式の採用が困難な場合、事務負担の大幅削減が期待できる「加入希望者のみ一括加入方式/C方式」の採用を推奨します。

<b>A方式 任意個別加入方式</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の留学生が個別に加入する方式</li> <li>・専用の「払込取扱票」を用いて、個別に加入申込手続き・保険料振込をする</li> </ul>
<b>B方式 全員加入方式</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生全員を加入対象とし、大学が保険料を一括入金する方式</li> <li>・加入漏れがなく、加入データを一括送信できるため利便性が高い</li> </ul>
<b>C方式 加入希望者のみ一括加入方式</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・任意の加入希望者のみを対象とし、大学が加入依頼データと保険料とを一括取り纏める方式</li> <li>・留学生は大学に対し、簡易的な一括加入依頼書を用いて加入依頼を行う</li> </ul>

制度導入をご希望の場合は、まず、下記の（公財）日本国際教育支援協会HPに掲載されている「登録票」を、FAXで支援協会までご提出ください。